

審査委員会からの今後に向けた意見

シーニックバイウェイ北海道 推進協議会

令和3年4月19日

「秀逸な道」各選定区間は、更なる魅力アップのため、下記を踏まえた取組を継続する必要がある。

- ① 選定区間のネーミングは重要。わかりやすく、短いものが良い
- ② 「その地域ならではの」、「1年のうち一瞬しか味わえない」など、景観、コンセプト、歴史等を含め、「すごい」と感じて貰うことが重要。このため観光資源の更なる掘り起こしや活用、伝え方の工夫が必要（アクティビティ、食、産業との連携などを含む）。また、観光資源の掘り起こしには、地域のみではなく、外部の目線も加えて考える必要がある
- ③ ウィズコロナを意識したドライブ周遊観光のパッケージモデルの作成・提案
- ④ シーニックバイウェイだからこそ出来る、地域の魅力（歴史、ストーリー等）を伝える現地ガイドの育成等、受入体制の構築
- ⑤ 複数の地域、自治体等におけるより一層の広域連携

「秀逸な道」全体としてのブランド力や魅力度向上のため、下記を踏まえた取組を推進する必要がある。

- ① 道民に対するPRが重要。道民が推薦してくれるようなものでなければ道外にも認知されない。統一感をもったプロモーションを行う必要がある
- ② 起終点のサインについて、地域、道路管理者とも相談しながら検討する必要がある
- ③ 「秀逸な道」の概念をわかりやすく伝える資料があると良い
- ④ 評価の考え方を整理し、ルートと共有する必要がある
- ⑤ コロナ禍によって個人や社会の価値観が少なからず変化しており、これをきっかけに「これからのシーニックバイウェイ」「これからの秀逸な道」について議論していく必要がある